

第157回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和2年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和2年の約1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、750件（過去20年間で、17番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、345件（過去20年間で、17番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,095件（過去20年間で、16番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが543件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが96件（全HIV感染者報告数の約12%）
 - 静注薬物によるものは5件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが190件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが57件（全AIDS患者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは3件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和2年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は68,998件（過去20年間で、19番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は66,519件（過去20年間で、20番目の件数）

《まとめ》

1. 令和2年の新規HIV感染者報告数は、令和元年より減少しており、4年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は令和元年と比べて増加した。その原因は現時点では定かではなく、血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、新規HIV感染者報告数の減少及びAIDS患者報告の増加により、4年ぶりに増加しており、新型コロナウイルス感染症の保健所及び医療機関の受診控えの影響による変化等も含めて今後注視していく必要がある。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したHIV検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査や医療機関による検査を積極的に利用いただきたい。